
早期臨床実習を終えて

早期臨床実習を終えて

歯学科1年 高津 彰史



早いもので、もうすぐ最初の1年間が終わろうとしています。入学当初は、行先6年間の期待や不安と、新しい環境とこれまでのそれとの温度差で、これからの大学生活の道程の長さを

想定していたものですが、今は良き友人に囲まれ、とても充実した日々を送れていると実感しています。この1年間で早いと感じることができたのも、日々の生活で充足感を得ることができたからだと思います。

さて、今ほど充足感とお話をさせていただきましたが、大学に入学して最初にそれをはっきりと感じることができたのが、早期臨床実習だったように思います。入学して間もない頃の、周りのみんなについていくのが精一杯だった私達の、生活の中心のひとつに確かにそれが存在していて、実習期間中の毎週金曜日は私にとって待ち遠しいものでした。数ヶ月前までは受験勉強に追われていたのに、今では、何も出来ないながらも白衣を着て病院の中でいろいろなことを学んでいるということが何よりも嬉しくて、自分たちの将来像を垣

間見ることが出来たような気がして、またそれが自分自身の心臓に早鐘を打たせるような、そんな貴重な時間を経験させていただきました。

実習の中でも、私の中で特に印象に残っているのが、患者付き添い実習です。その理由は、この実習が、これまで学んだことの総括をしてくれたように思えたからです。私の所属していた班は、患者役実習、各科見学、付き添い実習の順で実習が進行していきました。最初の患者役実習では、先輩方から治療をしてもらいながら、基本的な歯の磨き方や治療内容などを学びました。その後の各科見学では、各科の先生方の、患者さんに対する治療の別や意識していらっしゃることなどについてのお話を伺いました。そして最後の付き添い実習で、実際に来院された患者さんに付き添いの許可を頂いて見学をさせて頂いたのですが、この時私は、最初の患者役実習の時とは異なる印象を受けました。実習を通して学んだ、先生方から患者さんへのアプローチや思い遣りなどを現場で実際に見ることができたこの経験は、私達の今後への糧になると思っています。

最後に、私達のために貴重なお時間を割き、このような機会を与えてくださった先生方に、心から感謝申し上げます。今後の5年間で、歯科医師になるための勉強は勿論、人としても成長していけるよう頑張ります。

目に見えるもの全てが新鮮かつ学び ～早期臨床実習を終えて～

口腔生命福祉学科1年 藤田彩夏

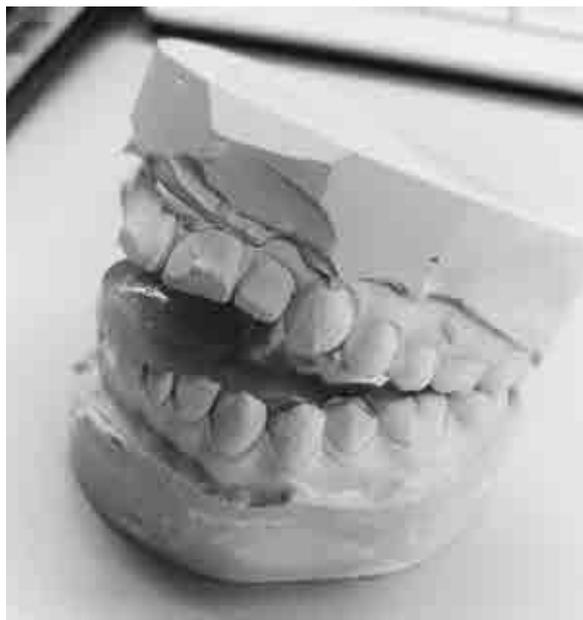
入学前、新潟大学の歯学部には早期臨床実習があると知って、とても興味を引かれました。実際に新潟大学の歯学部を選んだ理由の一つに早期臨床実習があります。入学してすぐに実習が始まる学校は珍しく、早い段階から医療現場に触れることができる魅力的なカリキュラムだと思いました。そのため、医療の現場に立てるという大きな期待を抱いていました。実習前に歯学部口腔生命福祉学科のユニフォームを初めて着たときのこれから頑張ろうという意気込みや、期待で胸をいっぱいにしたことは今でも忘れられません。その反面、実際に歯科医師や歯科衛生士、患者さんと触れ合うということに緊張感を持ちました。新潟大学医歯学総合病院のことや歯に関する知識もない、無知な状態で患者さんと接することはとても怖かったです。しかし、見たもの聞いたものが全て新鮮で学ぶことが多く、あっという間に早期臨床実習の過程が終わりました。また、今までは患者さんという立場でしか病院内に入ったことがありませんでしたが、責任感や患者さんの気持ちなど、医療従事者側だからこそ感じられることを経験できました。

「患者付き添い実習」で特に印象に残っていることは、患者さんに「いい笑顔だね。今日はありがとう。」と言われたことです。そのときは嬉しくて、実習生として頑張る糧になりました。医療従事者にとってのやりがいの一部を感じることが

できました。また、口腔内を健康に保つことは、人生を楽しく過ごすこと、QOLの向上にも繋がると学びました。

「患者役実習」では、歯学科の6年生の方に歯磨き指導や、歯垢の染め出しなどをしてもらいました。回数を重ねるごとに歯垢の付着度が低下するのを体験して、歯磨きの大事さや楽しさを再確認しました。私が歯科衛生士になったときは歯磨きを面倒だと感じている方に、この楽しさを伝えたいと思いました。

早期臨床実習を通して学んだことはこれからの実習や医療現場に就いたときに役立つと思います。今まで自分が患者として診察・治療を受けた時の気持ちを忘れず、患者さんの痛みを理解できる医療従事者となるためにこれからも勉強に励みます。



早期臨床実習を終えて

歯学科3年 丸山優依

3年生の前期に、早期臨床実習Ⅱが行われました。1年生の時の早期臨床実習Ⅰと同じように、班に分かれて臨床の現場に行き各診療科を見学します。ただ、早期臨床実習Ⅰよりも詳しい説明をされることが多く、見学に加えて、実際に器具を使って少し実習することもありました。各診療科の見学に行かない週は基礎科目の講義があり、歯科医療に必要な知識の多様性について理解できる貴重な機会となりました。また、昨年1年間で基礎科目について学び、少し知識が増えてからの早期臨床実習は、やはり1年生の時とは感じ方が変わったように思います。

どの診療科の見学でもそれぞれ印象に残る点がありました。例えば予防歯科の見学では、班員が交代でユニットに座り、お互いの口腔内を観察するという実習を行いました。それまで患者として治療を受けたことはありましたが、自分が他者の口腔内を見て判断する側になるのは初めてでし

た。口腔内は想像より暗く、観察するだけでも器具の使用法や患者と自分の体勢、光の当て方など様々なことを意識しなければいけません。治療時にはさらに多くのことを考える必要があり、歯科医師は多様な能力が求められる職業だと実感しました。また、歯の診療科ではレジン充填を行う治療の見学をしました。材料の特性や作用機序、作業工程などを学んだことで、1年生の時よりも治療時の作業の意味を考えながら見学ができたように思います。加えて、治療時の歯科医師の患者さんへの接し方にも意識を向けて見ることができました。他の診療科でも、色々な治療を見学し学んだ知識を確認しましたが、その一方で理解不足な点も多くあると感じました。

早期臨床実習Ⅱで歯科医師に求められる技術や知識、姿勢を学び、これから身につける必要のあるものの多さを再認識しました。現在は3年生の後期に入り、より専門的な科目や臨床に関わる実習が始まっています。早期臨床実習Ⅱで感じたことを意識し少しでも多くの知識や技術を習得して、より良い歯科医師になれるよう励んでいきたいと思います。



早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 白井 唯

こんにちは。口腔生命福祉学科2年の白井唯です。今回は早期臨床実習を終えてというテーマのもとに話をさせていただきます。

早期臨床実習ⅡBが始まったのは、私たちが2年生になったばかりの時でした。五十嵐キャンパスでの教養科目を終えたばかりで、医療の知識などまだまだ浅い私たちにとってこの早期臨床実習はとても興味深いものでした。

早期臨床実習では、福祉施設や病院歯科などの見学、高齢者疑似体験、歯科医院での業務を想定した患者待遇や電話対応の仕方、バイタルサインの取り方など、将来医療の現場に出た際に必要な技術や精神を幅広く学びました。これらの早期臨床実習を終えて、私はこれまでと違った価値観を持つようになりました。

中でも特に印象に残っているものの一つが、高齢者疑似体験実習です。高齢になると腕や足の感覚が重くなり、動かしにくくなる、難聴や視力の低下が起きるなど、不自由な点が多くなります。現在の私たちは身体に不自由なく生活を送ること

ができていますが、実際に手足におもりをつけたり、視野を悪くする眼鏡をかけたり、耳栓をするなどして高齢者の身になることで、高齢の方の気持ちを知ることができました。この実習を通して、視覚や聴覚が制限されることによる不安感や孤独感、身体を思い通りに動かすことができない苦しさなどを身をもって体験し、歯科に来院された方にとどまらず、日常のあらゆる場面で高齢の方の身になり、配慮していくことが重要だと気づかされました。

また、新潟医療センターでの見学実習も印象に残っています。新潟医療センターには歯科があり、歯科衛生士が病院内の様々な職種の人々と連携をとりながら働いている場であることを学びました。私は以前まで、衛生士は診療所などにおいて歯科医師のアシスタントをする立場であると考えていましたが、実際は衛生士が主体となって働く場面が多くあることを学びました。周術期の患者さんの口腔ケアや栄養管理など、医科とも連携していく必要があることを知り、歯科と医科は切り離して考えてはいけないのだと感じました。

早期臨床実習で学んだことはこれからも心に留めて、これからの実習に臨みたいと思います。

